第2回神戸市公園緑地審議会 計画・緑化部会
議事要旨

日時：2024年12月9日（月）10：00～12：00

場所：神戸市職員研修所 第2研修室

出席者：赤澤部会長、小川委員、新保委員、馬場委員、松下委員、天川委員、白砂委員、
（WEB）深町委員

1. 開会
2. 議事

＝事務局より、議事内容の説明＝

赤澤部会長

- ・ 議題3つ、振り返りと構成、基本理念、次期目標について意見をいただきたい。
- ・ 海士町の計画を供覧しているが、神戸市も海士町のような分かりやすい計画を目指しているということで、参考に見ていただいている。

新保委員

- ・ 海士町のようにというのは、見た目以外にも地元住民もいれて計画を作っていく考えか？

事務局

- ・ イメージとして分かりやすいものにするということで事例としてあげた。
- ・ 住民参画については、アンケートなどは取っていく必要があるが人口的にも同じようなものがつくれるかどうかは検討が必要。
- ・ 緑の基本計画が職員の教科書になるだけでなく、神戸市が頑張っていく内容を市民と共有していきたいという思いがある。

新保委員

- ・ 市民の人が自分事としてとらえられるようにというのが大事だと思う。

赤澤部会長

- ・ 基本的には最終的な見え方というところを意識しながら、市民協働を目標にしていくという考え。

白砂委員

- ・ 緑の定義について、空間の記載がオープンスペースなど都市部的なものになっている。
- ・ 「緑と生きる」というのはいいコンセプト。緑の中には生物多様性や里山もある。植物やオープンスペースは都市の中の空間。
- ・ 経済性多くは自然生態系、里山。特に黒田副市長が里山の研究者であり、経済性があると講演いただいた。単にスペースが水面でなく、自然生態系と人間活動が融合した里山・都心部。そういう空間構成をされるといいと思った。
- ・ 植物は成長する、変化するという概念がある。そのため、空間時間という概念を取り入れるのが必要ではないかと思う。
- ・ 田園という表記を里山という表記にした方がよい。

赤澤部会長

- ・ 漢字表記の「緑」とひらがな「みどり」があるが空間と取り組み活動を含めるのがひらがなの「みどり」、空間だけを表すときに使うのが漢字の「緑」を使うことが多い。
- ・ 空間の中には、生態系もあればいろんな空間構成、都市から地域までグラデーションを加えた方がいい。
- ・ 育成していく中で、維持管理で良くしていくという概念が大事。ここでしっかりと定義していくというのが良い

馬場委員

- ・ 維持管理の観点が重要。2, 3日前に倒木があったこともあり、緑を増やすところと、これから人口も減る中で維持管理をどう効率的にやっていくのかというマネジメントの視点が大事。
- ・ 今後出てくるかもしれないが、様々な主体による緑の関わりを増やすということだが、公共的な空間に対して、いろんな人が関わるということなのか、民有地についても屋上庭園なども働きかけていくということなのか？民間の空間の緑化についてはどう考えているか。

事務局

- ・ 民間の緑化についても重要と考えており、都市部の緑化を進めていくには公共用地だけでは限界がある。次のステップに進むためには民間の土地をどう緑化すべきかと考える。そこに対して行政がどう関わりを作っていくかが課題。
- ・ 維持管理についても、その土地の人だけでなく関わりたいと考えてくれる市民団体とも協働で進めていければと考えている。アプローチ方法を検討していきたい。

赤澤部会長

- ・ 公有地と民有地、六甲山などは緑を増やしようがない部分、コントロールできるのはま

ちの緑。街路樹公園のような公有地もあれば、民有地も多いはず。大阪市では公園街路樹は数パーセントで、市の緑の割合はほとんどが民有地。

- ・ みんなでやらないといけないという（経済活動を含めてやる）ということ、最初に示していく必要がある。キーワードで「循環させて・持続させる」。適正化もさせるということが伝わるようなマネジメントという視点を最初の段階から示していく方がいい。

白砂委員

- ・ 京都市は半分が夏日となっており、今後神戸も同じようなことになる可能性がある。いかに具体的に街路空間をどれだけ緑陰で覆っていくという目標があると良い。
- ・ 緑被率の目標が現状又は増加となっているがそれでは足りないのではと思っている。他事例の仙台市は78%。神戸市は80%にするくらいの意識が必要なのは。
- ・ 仙台市は、維持管理の仕方が凝っており、樹木を切らないように見せてあたかも自然樹形に近いような管理を行っている。それが仙台の都市景観に繋がっている。
- ・ 具体的な目標を示して、そのためにはいつまでになにをという5W1Hが示せたら、市民の人にも理解されやすいのかなと思う。神戸市はすごいビジョンを持っているというようにできるといい。

赤澤部会長

- ・ 増やせるところをどうするのか、本数を増やすのか維持管理で効果を増やすのかを検討してもらえたらと思う。緑を増やすだけだと倒れる本数も増える。緑を増やすときには、植えるだけでなく土壌を作らないといけない。そういった根本的な目標・施策が必要。最初の整備から順番にやっていければと思う。

天川委員

- ・ 緑の保全について、神戸市の緑被率が全国でどの位置にいるのかは示すべき。
- ・ 経済的なことについて、民間が関わることについて、マンションを立て直すときには樹木が撤去され、新たに建てたときには同じようには植わっていない。民間の事業者に撤去したら植えるということを明確に示していくのが難しいと思う。
- ・ 神戸市も昔はやっていたと思うが、それが駐車場緑化や壁面緑化に繋がっていると聞いたことがある。なかなか難しいということは理解しているが、もう一度原点に立ち返ってそれならこうしてほしい。ということを取り込んだたいいと思った。メンテナンス等が大変なのはわかっているが、企業の参加を含めて書き込めばいいと思った。
- ・ 高速道路の高架下などで見える範囲の緑化をどう企業に働きかけていくか。公開空地を緑にして、ということも言ってもいいと思う。

赤澤部会長

- ・ 高架下について関東ではにぎわい施設や公園を作るというもの進んでいる。昔は暗くて怖いところという印象から、陰で涼しいところというに変わっている。
- ・ 民間と一緒にいろんな緑の空間を維持していくということを施策で掲げることになる。自社の開発に伴って魅力化するなど公共が規制を緩和することで民間にも緑を増やす。
- ・ 工場緑化についても、工場が敷地を目いっぱい使いたいという企業が多いのであれば、飛び地でまとめて公園を作る・街路樹の維持管理費を年割で払ってもらうなどマネジメントに還元してもらうといった工夫があると思う。

事務局

- ・ 民有地の緑化も重要と考えている。今までも制度としてあったが一般の市街地は敷地が狭くてなかなか進んでいない。公開空地など敷地の一部、緑にすべき空間を民間も緑化をしてもらえる政策を実施していきたい。質の高い緑化・維持管理をしていくという視点でも民有地緑化の支援施策をやっていきたい。

松下委員

- ・ 須磨海岸でわかめの株つけのイベントに行った。こうべは海の中の緑もつながっていると思う。プレイヤーとしている漁師の方たちとも一緒にやっていく方法もあると思った。
- ・ 以前、北野町1丁目の斜面を茶畑にできないかという意見を聞いた。今、塩屋9丁目でも、旧市営住宅で空き地を利用しながら地域の人がワイン農園など活用を頑張っている。
- ・ 実行できるプレイヤーが多いのが神戸の特徴だと思う。街路樹・公園だけでなく、神戸全体で考えられる人が多くいる。そういった方を後押しできる計画にしていってもらえるといいと思う。

事務局

- ・ プレイヤーの関わってもらうことは大事だと思っている。公園街路樹だけでなく、山の緑・里山の緑をどう守っていくかは、所有者や行政だけ進むものではないので、プレイヤーの方にどう参画してもらうかの仕組みを考えていきたい。

赤澤部会長

- ・ 海辺も緑に含まれる。今はいろんな人がプレイヤーであり、いろんな運営がある。行政は中間支援的な役割が大きくなっている。そういったものを循環の中核におくことが、緑の施策の基本になるかと思う。

小川委員

- ・ 緑の効果について「人が緑とともにありつづけられる都市」と記載があるが、人の一生の中で、人が緑とどのように関わっているのかというのが出てくると、緑の効果に対するイメージがわきやすくなると思う。例えば、子供は公園で遊ぶのは子育て支援の効果がある、少し大きくなると休養や防災・減災などの効果を実感できるなど、人間の一生に沿って緑がどのような役割を果たしているのか、という事を示すとわかりやすくなると思う。

赤澤部会長

- ・ 県でいえばビジョンなどが該当してくるが、シナリオを作るなどで、ライフステージでいろんな方がいろんな関わり方を示している。そういった示し方はわかりやすいと思う。

深町委員

- ・ 「緑」と「みどり」の使い方について、定義や違いが難しそうだと思った。どういった場合に使い分けているのかを確認させてもらいたい。
- ・ 里山について、キーワードの一つとして資源循環があると思う。例えば街路樹や里山などで出てきた材が、ごみではなく地域等で資源として循環していくという形で維持管理や関わりが明確にある方が良い。
- ・ 対象となる緑について、保存樹木やランドマークなど人との関わりの中にある小規模な樹木にもフォーカスする必要がある。今はそういったものの大切さが理解されにくいいため、普及啓発も含めて、孤立樹木についても注目して行ってほしい。

赤澤部会長

- ・ 「緑」と「みどり」の定義については、空間が「緑」で活動も含めると「みどり」になると整理をしながら、都市から田園へのグラデーションや公有地から民有地までいろんなものがあるという点を空間の方で説明。アクションでは経済活動で循環していくところを踏まえて整理いただければと思いました。
- ・ 循環の概念は4つのキーワードだけでなくそれを循環させていくという視点を示してもらおう。
- ・ 点の緑の良さを分かってもらおう。そもそも知らないという事が多い。大阪市でも満足度の高いところは緑の関心が高いところ。ちゃんとわかっているならば満足度も上がる。最初に知るということ置き、どう情報を共有するかということを示すことが必要。それが循環の基本にもなる。

白砂委員

- ・ 公共の緑では、クレームがまちづくりのハードルとなっている。市民の人が知る・学ぶ

ということを入れた方がいいのではないか。いかにこういう活動の価値を広報していくか。勉強会などでいいと思うが、多くの人が緑活動の意義や価値を学ぶ場が大切ではないかと思う。パリでは、緑化のプロモーションビデオを作成した。神戸も SNS などプロモーションを発信するなどそういった戦略を盛り込んでいったらどうか。

- ・ 京都の桂坂の小学生にしたアンケートで「この街の魅力は何ですか」という質問に対し、多くが「緑」と答えた。そこは周辺の住宅地を緑道が巡っている。近隣公園も原っぱが多い。子どもも環境に理解を示す。示してもらっている基本理念には、緑の価値を学んで実践するという意味も入ると思う。

事務局

- ・ 行政が作る計画が知られていないのが課題。職員にしても、どうやって自分事化していくか。どうゆうきっかけで知ってもらえるか。プロモーションや SNS など方法は考えていく必要がある。緑を知るきっかけを作っていく。
知らな過ぎているところがあるので、知るきっかけとしてこの計画はチャンスだと思う。
- ・ それを同じ気持ちで持てる・共感できる目標としていきたい。

新保委員

- ・ ①効果について、場面場面での緑の良さが示されると良いという意見あったが、さらに課題解決の視点もあると良いと思う。ネイチャーベースドソリューションズの考え方をもう少し出して、神戸市や環境問題への解決という課題からのスタートできればよいと思った。
- ・ ②緑の保全について、守っていくというのが今までの主眼であったが、「創出」や「再生」に世の中が向いていっている。これからはあるべき都市の姿に向かって、生態系をどう再生していくのかという視点が大事だと思う。人口減少に伴って空き地も出てきている。そういった施策との関連も示して、小さい民有地を農園にするなども増えているので、連携させるように、神戸らしい緑の再生の在り方と示せると良い。
- ・ ③新たな緑の役割について、気候変動だけでなく、自己実現の場や食糧確保などそういったソーシャルな役割も示していけるといいと思った。
- ・ ④緑の質について、目標値が従来の目標になってしまっている。満足度や緑視率は方法によって結果が変わってくるため、実質的な目標にならないのではと思う。それよりも生物多様性や暑熱低減などの目標の方が質を図るものになるのではと思った。

事務局

- ・ ①課題解決の視点をということなので、そういったことを触れたうえで構成していきたいと思う。
- ・ ③新たな役割に入れるのか、もしくは質にも福祉的な視点を考えていくために、盛り込

むことも検討する。

- ・ 生物多様性の点の方が、質を担保する緑視率でいくのか。数値化しやすいものでいくのかも考えていきたいと思う。

赤澤部会長

- ・ 時間軸ですぐできることとできないこと。ずっと変わらない目標と変わっていく目標があると思う。そういったこともきちんと示す。
- ・ 長期的な視点、短期的な視点で考えていけたらと思う。
- ・ 生態系の再生など、他の施策との関連、まち全体の目標に緑がどう絡んでいくなどを入れるのもいいかと思う。(全体に載せるのか施策編に載せるのかはあるが。)

馬場委員

- ・ 気候変動に対応した目標について、「気候変動に対応する」というのは、ヒートアイランド現象なのか水害なのかなど気候変動の対応の内容も様々ある。海外では集中豪雨に関することが多い。緑においては、雨水対策は浸透貯留だと思う。土の面を増やして浸透させるというのが重要な視点になる。そういったところを緑と水害対策的なところをどうするのかという点がある。海外の事例では、下水などと一緒にやっている。今の目標は気候変動の一部分過ぎるかなと感じた。
- ・ 海外の目標はワクワクするものが多い、4つの視点が行政目線で少し硬いなど思ってしまうので、社会的に市民がどんな自分の動きや役割をイメージできるかがあまりない。まちがどう向かっていくのかのイメージがわからない。
- ・ 市民一人一人の関わり方にわくわく感がない。もっと協力していこうというときには、参加したいという想いがないと難しいので、イメージをしやすいものがある方が良くかなと思う。市民目線の概念・コンセプトがあってもいいのかと思った。

事務局

- ・ Well-being という視点で体や心について緑の有効性として、目標値にできるかはわからないが、示していきたいと思う。

赤澤部会長

- ・ どのレベルでやりたいことを中心にして、どのレベルで課題解決を書いていくかバランスが必要。WILL、CAN、MUST の考え方。目標値のところでバランスよくしていくのもよいかと思う。新保委員の「課題から示す」というのは具体的なイメージはあるか？

新保委員

- ・ (あまり具体的には考えていなかったが、) 暑すぎるからどうにかする(課題)ではなく、夏に涼しく過ごすためにはどうするのか、といった表現などで課題を楽しく表現できれば良いと思った。

小川委員

- ・ P24「市民の関わりがある公園」とあり、P25の指標例に「身近な公園の利用頻度」や「身近な公園の役割が子どもを遊ばせる場所と回答する市民の割合の増加」とある。案①は維持管理の面でボランティア等に関わってもらうという事だと感じた。そうになると、一見すると結びつかない。案①の指標としては、事例でいう案②の方が関係してくるのでは?と感じた。
- ・ 案②は公園だけでなく緑となっている。神戸市は市街化調整区域における緑(里山など)は市街化区域とは性質が異なってくると思う。「緑での関わり」という「緑」を一律にするのではなく、市街化調整区域の緑(農地や里山)と市街化区域の緑と分けて考えていく必要があるかと思う。
- ・ 空き家などをどう使っていくかという点については、空き家対策との関連になっていくので、緑の基本計画だけの問題ではなく、空き家対策としてどういった方向性でいくのか整理が必要になってくる。

新保委員

- ・ 案②の指標について、さいたま市の緑の基本計画にも関わっていたが、「緑に関する取り組み」には家での花の栽培など幅広く入っているため、ここに記載するとミスリードになる可能性があるかと思った。幅広く裾野を広げてとらえるということであればいいと思う。

赤澤部会長

- ・ 前回の目標の話になるが、指標が「満足している」のみでそれで向上させるというのがハードルが高いと思う。「やや満足している」も含めるなど、目標ももう少し前向きに見える方が良いと思った。

天川委員

- ・ 市内に市民農園も複数あり、例えば灘区には茶畑があるが、これからそういうものが増えていくと思う。そういった場所をもっと知ってもらうとか管理するとかの指標が盛り込まれて、市民が「これはやっていいんだ」という事がわかるような書きぶりになると良いと思った。
- ・ 空き家は個人のもので行政が手を出せないというのが全国的に問題になっている。

それを緑を絡めてどうしていくのが地域でもよいのかを示していくというところまで踏み込んでいく指標になればよいなと思った。

事務局

- ・ 民有地の空き地の話は、神戸市では燃え広がりやすい密集市街地においては危険な住宅については市が除却して、市民が管理してもらおうと非課税にすることになっている。その選択肢中で、花壇や農園をしてもらっている事例もある。そういう形で民有地の中に増えていくというのがある。都市計画やまちづくりの観点でいうと、地域団体と協定を結んで接道している部分になるべく緑をうける努力目標しているなどもあり、植栽がそのまま残ってマンションになるなどの事象も踏まえて、この計画に含めていければと思う。

赤澤部会長

- ・ いろんな緑があるというのが良いことで、コミュニティガーデンが単に増えればよいという事でもないので、その時々にあった状態が保たれるような指標としては難しいかもというのがあるが、バリエーションがあるというのがひとつの目標かなと思う。

新保委員

- ・ 空き家サイドから検索するとそういった制度などのページへ辿り着くが、緑サイドからは辿り着かないので、緑を増やしたい・活用したいと思っている人がたどり着きやすい方法があればいいと思った。

白砂委員

- ・ 目標の4つの視点について、緑の保全が緑被率となっており、緑の保全は緑被率だけではないと思う。理念があって課題があってというツリー構造になっていないのではと思う。そうしないと、話がすごく矮小化されないかな？と感じた。
都市の公園あるいは街路だけの話に縮小していることが問題なのではないか。
人間関係の増加って公園と市民の関わりを増すことだけなのだろうか？新たな役割が突然、気候変動になり、他事例が記載されていたり。
- ・ 住民が楽しく参加したいと思える視点が入れば活きた計画にならないかと思う。

赤澤委員

- ・ 今回の説明では、前半に「なぜするのか」を示したあとに、基本理念から目標の設定にかけては「何をするのか」だけと分かれてしまっている。いっぱい「何をするか」を書いているが、それだけを見るとなぜこうなるのかとなる。
- ・ 「何をするのか」の説明として「なぜするのか」がわかるような書き方になれば。

白砂委員

- ・ 横浜は緑税をとって里山保全をしているが、神戸市は取っていない？

事務局

- ・ 市が単独ではとっていないが兵庫県が県民緑税とっている。それが各市に還元されており神戸市もそれを使用している。

白砂委員

- ・ そういった資金も財産だと思う。